

# 伝統文化の取組から広がる教育活動

## — 総合芸術がもたらす人間づくり —

研究指導主事 秦 良 房

Hata Yoshihusa

### 要 旨

明治の開国以来、西洋のアカデミックな芸術（表現・鑑賞・技法）が本格的に日本に上陸し、古来大陸から伝承し変容しながら日本固有のものとなった文化と複雑に混在することとなった。我々の先人たちが残した伝統文化のすばらしい表現・技法を理解できる子どもたちを生み出すことの責務は大変重い。新学習指導要領（教育内容の主な改善事項②）も、伝統や文化に関する教育の充実をうたっている。また、正々堂々と生きる子どもを目指し、相互扶助の精神や自己研鑽に努める姿勢を「人形浄瑠璃」の創作・公演を通して育てるために、探究科をもつ高等学校の事例を基に研究する。

キーワード： 正々堂々と生きる、人間づくり

### 1 はじめに

総合的な学習の時間の「大和学」などのコースや、特別活動においても本県や郷土についての文化の調査するなど教育の中に取り組んでいる例は見られるが、子どもたちが郷土に残る文化や遺産を理解し、伝承するには教育の場での取組はまだまだ十分ではないと思う。そこで具体的な取組として、日本の伝統文化である「人形浄瑠璃」を題材として、総合芸術がもたらす人間づくりという点に着目し、様々な調査、制作、発表を通して子どもたち自ら成長するための教材を準備する。

### 2 研究目的

子どもたち自身が、なかなか自分探しができず、「自分はいったい何ができるのだろうか。」「何をしたいのか。」を問いながら学校生活を送っている。本題材は、子どもたちが集団という環境の中で手探りの状態ではあるが、総合芸術に携わることによって、自分の可能性や潜在的な興味や長所・短所を見つけられるという点において、「ものづくり」を通して「人間づくり」を目的とするために様々な領域の題材を用意する。

### 3 研究方法

- (1) 総合的な学習の時間を効果的に教科と連動させ、効果的なカリキュラムを組む。
- (2) 伝統文化をどのようにして身近なものとするのか分析し、子どもたちが扱いやすいように教材化する。

## 4 研究内容

### (1) 年間授業計画

	教材名	学習のねらい	学習活動
4月	オリエンテーション 人形浄瑠璃とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の授業内容を理解する。</li> <li>・江戸期の風俗を知る。</li> <li>・人形浄瑠璃について学ぶ。</li> <li>・ビデオ視聴で役割や内容や歴史を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のファイルや名札等に勘亭流で氏名を書く。</li> <li>・報告レポートに人形浄瑠璃について興味がわいたことなどを書く。</li> </ul>
5月	義経千本桜 を現代語訳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班で段ごとの紙芝居のための内容を現代語訳をする。</li> <li>・古語辞典の取り扱いについて学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各段の登場人物の紙人形に棒をつけ、背景に合わせて動かせる。</li> <li>・他の班の人があらすじが分かるように現代風に脚本化する。</li> </ul>
6月	文化祭・保育所公演 用人形劇制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの特性や興味を考え、舞台美術・音響・衣装・人形制作</li> <li>・脚本・進行・声優などに分け、企画や役割を決める。人形制作に関して全員参加で制作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・《参考》に示されるような人形制作で、簡単な材料を極力使用する。</li> </ul>
7月	制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や様々な制約の中、各班で時間を作り、各担当の準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台や小道具、大道具は保育所への移動を考えたものにする。</li> </ul>
8月	文化祭上演	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上演での失敗や良かった点を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが喜ぶ動きや脚本に変える。</li> </ul>
9月	保育所上演		
10月	人形浄瑠璃上演のための人形制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民俗学（時代考証）取材・役者絵・浮世絵制作・招き文字学習・三味線・太夫・舞台美術</li> <li>・音響・衣装デザイン・人形制作・人形遣いに担当を分ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員人形制作と衣装、鬘等に時間を優先し、その後、取材や研究、舞台、音響、太夫、三味線など準備日程を各担当で意識しながら、最後は全員で通しリハーサルを行う。</li> </ul>
11月			
12月	人形浄瑠璃上演のための練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人形遣い、太夫、三味線を合わせる。</li> </ul>	
1月	上演	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら責任をもって関わりながら成功に導くための大切なものは何かを考え、何を獲得したかを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や図を入れ分かりやすいレポートにし、次年度の生徒に役立つようなレポート作成をする。</li> </ul>
2月	最終レポート作成		

### (2) 取組

#### 事例1 「人形制作Ⅰ（童話劇用）」

##### ① 研究主題

- ・ 童話劇用の人形制作のための創意・工夫
- ・ 人間の動作についての考察

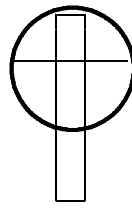
②ねらい

人形については、形態や人形遣いの人数など古今東西様々な形態がある。中でも人形浄瑠璃での3人遣いというのは大変稀なものである。その歴史や扱い方を学び、文化や伝統の素晴らしさを学習することをねらいとした。人形制作Ⅰは簡単な素材での人形作りで、人形制作Ⅱの文楽人形作りのための学習である。

教科等	総合的な学習の時間	学年	1	単元名	人形制作Ⅰ（童話劇用）
単元のねらい		人形制作を通じ、人間の動きを理解し、科学的な思考も持つようにさせる。			
取り扱う内容		保育園での童話劇用の人形制作			
◇単元の概要					
保育園での公演を念頭にして、人形の成り立ち、歴史、構造など把握し、簡単な材料を生かしながら個性ある人形制作をする。					
◇単元の指導計画（全4時間）					
時間	主な学習内容、学習活動等			指導上の留意点、取組体制等	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○桐竹勘十郎氏出演の課外授業「ようこそ先輩」のビデオ視聴をする。</li> <li>○3人遣いのための人形の構造を把握する。</li> <li>○人間の体のバランスと人形のバランスを理解する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・桐竹勘十郎氏の業績等紹介し、文楽についてビデオで理解させる。</li> <li>・世界の人形とその構造を紹介する。</li> <li>・人形の設計図面を提示する。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○7人～8人くらいの班で人形制作する。</li> <li>○物語の登場人物のイメージから、体の部位の担当者を決め、その絵コンテを話し合う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラクターの表現に統一感を持たせるように、各班よりイメージコンテを出し、それを基に共通のイメージをもたせる。</li> </ul>	
3	○制作作業			<ul style="list-style-type: none"> <li>・カップ麺の容器2（頭部）、段ボール、ロープ、厚紙、割り箸、ガムテープ、紙粘土、棒、等の準備をする。</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○完成した人形で人の動きを確かめる。</li> <li>○各班の創意工夫について評価する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の動作を各班に課題として与え、演じさせる。それらが自然に動かせるようにできているかを全員で評価する。</li> <li>・こだわりをもって制作する姿勢をもつことを全員理解する。</li> </ul>	
1	○文化祭や市の保育園で公演をする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の作業と責任を明確にし、創造する喜びと園児たちがもつ感動や表情を感じとれるようにする。</li> </ul>	
◇本単元における成果と課題					
簡単な素材によって人形作りをするが、安易に制作してしまうのではなく、顔や物の表現にこだわった作品を、それぞれが追求するような姿勢を育成することが課題である。					

頭部・・・①カップ麺の容器の接合する。

②外側に紐を巻き、紙粘土で顔を作り、乾燥後着色する。

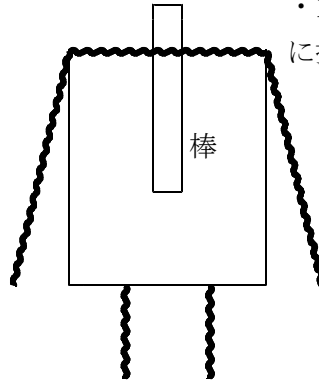


・ガムテープで接合し、中の天部分まで棒を突き刺し、固定する。  
・髪は毛糸でもその他の材料を探す。

胴体部・・・①段ボールで箱を作る。

②頭部の棒を差し込む。

③肩から両腕に縄を垂らす。

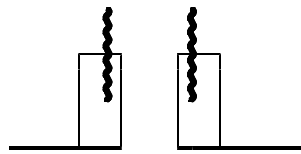


・主遣いが首の操作のために掴む部分は開けておく。

・手の先には厚紙で手首まで型取りし、割り箸を付け操作できるようにする。

足部・・・①ペットボトルの底に穴を開け、縄をとめる。

②厚紙に足型か靴型を切りペットボトルに付ける。



・その後、紐を巻いて足や靴など紙粘土で肉付けをする。

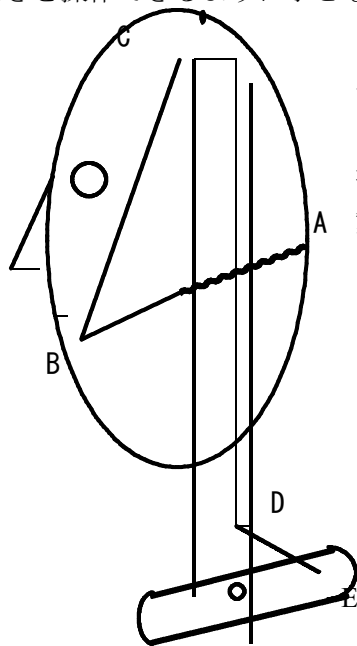
教科等	総合的な学習の時間	学年	1	単元名	人形制作Ⅱ（人形浄瑠璃用）
単元のねらい	体の微妙な動きや機能を理解し、人形制作を通じて自然な動きを表現する。				
取り扱う内容	公演用の人形制作				
◇本単元の概要 本物の文楽人形にいかになら近づけるかをテーマに、それぞれの担当で話し合い、工夫しながら制作する。さらに完成した人形を遣って、人形遣い・太夫・三味線・音響が一体となった表現を目指す。					
◇単元の指導計画（全9時間）					
時間	主な学習内容、学習活動等			教師の支援、取組体制等	
1	○頭部、胴体部、手・足の体の各部担当者と衣装制作担当者が図面制作をする。 ○資料に基づいて材料、技法を研究し、各パーツの制作をする。			・彫りやすい木や顔や指の可動操作ができるような内部構造を考えさせる。 ・時代考証から衣装デザインしたものを基に、古着などを持ち寄る	
2	○制作作業			・首や手足の操作がうまくできるような仕組みになっているかを絶えず確認する。 ・実際は檜に紙を貼って面相を入れるが、木	


8	○物語の登場人物のイメージから、実際の文楽人形に近い表情や髪などを作る。	に直接ジェッソを塗り、研磨し面相を入れる。 ・体の各部にもジェッソを塗り研磨する。 ・手や顎の操作には天蚕糸を使う。
9	○完成したの人形に衣装を着せる。 ○3人遣いで操作をする。 ○各班の創意工夫について評価する。	・文楽のビデオを参考に同様の動きをさせる。 ・こだわりを持って制作する姿勢を全体に浸透させるようにする。
1	○出来上がった人形を遣い、太夫・三味線 ・音響と合わせた動きを覚える。	・一人一人の担当作業と責任を明確にし、感情を込めて恥ずかしがることなく、正々堂々と演じきることを徹底する。

◇本単元における成果と課題

頭（かしら）は本来檜材を使うが、彫りづらいため、授業ではそれに代わる素材選びに見られるように、文楽人形古来の制作技法を変え、作りやすく安価なものにした。三味線などの指導者がいない時は映像から音を拾い、台本に書き入れ、三味線に印を貼ったりするなど創意・工夫が各担当でなされていた。

自然な動きを操作できるように子どもたちが創作した工夫例



頭（かしら）部の内部はAの留め具についた  バネと天蚕糸を結び、顎のBの留め具、Cの留め具を経由し、空洞の木の中を通り、Dの留め具から外のEに結び指で上下させて引っ張ったり、緩めたりして顎の自然な動きを出す。

手の操作のための構造は、親指以外の各指の甲側関節部とひら側の関節部から出る2本の天蚕糸の引っ張り合いで手を閉じたり、開いたりできるようにする。

各担当の創意・工夫

- 時代考証…古典講読より民俗学を調査し当時の食物の再現と現地調査。
- 役者絵…浮世絵技法を調べ、ちらしを多色木版印刷する。
- 招き文字…招き用ちらしを作成する。
- 三味線…過去の映像や音符を基に太夫と音を合わせる。
- 太夫…発声の仕方や感情の表し方を学び、三味線と合わせる。
- 舞台美術…背景や舞台、幕や三味線・太夫の配置などの企画と創作・設営。
- 音響…日常の道具によって、より効果的な音響を作成する。
- 衣装…早着替えのための効果的な衣装デザイン等。

## 5 研究結果と考察

国語、地理歴史・公民、音楽、美術、書道、家庭の各教科との連携を図り、また地域で三味線や人形作りなど様々な技能をもっておられる地域の方々や文楽人形遣いの方々にも支援していただき、子どもたちが自らの長所や興味、得手・不得手などを自問自答しながら、調査し発表を進めていくことを「人間づくり」という視点からみた時、大変意義深いものであると感じる。最終レポートには、自分のしたことが全体の役に立ったことの意義や喜びを必ず挙げている。自らの創意・工夫を他者に評価されることや、誉めてもらうことが子どもたちには大切であり、成長には欠かせないものと思われる。また、ふだん享受する側の立場にある子どもたちが逆の立場に立って、そのよさを知り、「やれば何かを生み出せる。」という自信と信念をもつことができたなら、それは教員が最も願うすばらしいことである。

人前に立って目立ちたいという子どもは学級の中では極少数である。太夫は、恥ずかしいという感情を殺し、聴衆を圧倒するほどの表現をしてこそ演技や音響が生きてくる。その稟とした姿勢を貫いてこそ他の子どもたちに勇気や責任感が伝わり、一つにまとまっていくのである。それ故、太夫に求められる「正々堂々」と演じきることは、恥ずかしいと思う心を捨て、やり遂げる勇気と自らの鍛錬を信ずる心をもたないといけないことではない。太夫は全員にとって、それらが最も大切なことだと気付かせる象徴的な役割といえる。部活動や学級活動において、「太夫」のような役割の子どもがいれば、自ずと周囲は感化されると思われる。

また、最終レポートには「自分さがし」や「生きる力」に関わる内容の報告が多い。自分のしたことによって成功につながったという確信や、小さな園児たちの喜ぶ顔を見て感動したこと、またプレゼンする力ができたことや取材を通じて地域の人たちの温みを知ったことなど、それぞれが貴重な体験をしたと報告している。

## 6 おわりに

新しく「総合的な学習の時間」として、「芸術・文化」を開設するにあたり、「何故、人形浄瑠璃なのだ。」という意見も学校内にあった。伝統文化の素晴らしさに触れることは大切であり、学習指導要領に美術文化の継承と創造への関心を高めることと記載されている。歌舞伎、能、郷土芸能など多くの選択肢があったが、からくり人形など日本古来の工芸技術の高さなどに関心を持てるような理科系の物作りの好きな子どもがいるだろうし、裁縫や装飾品のデザインなどに興味をもつ子どももいるだろうと予測し、それぞれの興味・関心を幅広くもてるような教材設定を考えた。

手始めに、芸能学科を開設している大阪府立東住吉高等学校へ学校訪問をした。大阪の文化を担っておられる多くの著名な方々が、講師として名前を連ねておられた。文化を次世代に残したいという願いを熱く感じた。また、国立文楽劇場に赴き、何の面識もないのに、桐竹勘十郎氏が面会してくださり、さらには学校にまで来て実技演習をしていただいた。熱意をもって取り組む姿勢を子どもたちは見逃さない。大人が正々堂々と生きることを示すことが、教育の中心にあると確信し、今後の教育活動に取り組みたい。

**参考文献** (1) NHK編ビデオ(2004年1月18日放映)「ようこそ先輩『課外授業』」